

# 13 短歌を味わう

学年	
組	
名前	

1 次の短歌の意味にあてはまるものを、後から選び、記号で答えましょう。

① ふるさとのなまりなつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆく

☆ 石川啄木いしかわたくぼく（→） 与謝野晶子よさのあきこ（←）の作品です。この他にもすばらしい短歌があります。気に入った短歌を暗唱しましょう。

② 海恋し潮の遠鳴りかぞえては少女おとめとなりし父母の家

- ア ひさしぶりにふるさとの駅に立つ喜びをうたっている。
- イ 都会に住みながら、ふるさとを思う気持ちを歌っている。
- ウ 自分が育った生家をなつかしくうたっている。
- エ 夏の日のできごとを、思い出しながらうたっている。

2 次の文章の（ア）（イ）（ウ）に言葉を入れて、「短歌」について説明する文章にしましょう。

短歌は、日本独特の短い詩です。五・七・五・七・七の三十一音で表現されるのがふつうです。奈良時代の終わりに、（ア）という歌集が作られてから、今にいたるまで、千年以上の（イ）があります。

（ウ）の美しさを、五音と七音の組み合わせに見だし、短い言葉で自分を表現しようとした昔の人の心は、現在にも受けつがれています。

- ア・・・（万葉集）
- イ・・・（伝統）
- ウ・・・（日本語）